

呉まちなか公共空間デザイン会議（第6回）議事録

1 日時 令和8年2月9日（月）13時30分から15時30分まで

2 場所 呉市役所9階 海洋・海事未来研究所サテライト

●会議の流れ

- 1 新任委員紹介（資料1）
 - 2 議事(1)に関して土木総務課から説明（資料2）
 - 3 意見交換
 - 4 議事(2)に関して土木総務課から説明（資料3）
 - 5 意見交換
- 閉会

【質疑・意見交換1】

呉まちなか公共空間基本デザイン策定（資料2）に係る各委員からの主な意見は次のとおり

リーディングエリアにおけるゾーンコンセプト・機能配置案等について

○意見1

ゾーンコンセプトは、これまで会議で出された意見がしっかり落とし込まれていると思う。計画を進めていくに当たって、このコンセプトがぶれるようなことがあってはいけないので、これを大事にしていきたい。素敵なコンセプトだと思うので、とにかくぶれないで欲しい。

ゾーンAの「遊びと挑戦のゾーン」について、このエリアはどんぐりの大型遊具があるため、子どもが楽しく遊ぶという使い方がメインになると思う。ただし、大人にとっても「遊びと挑戦」は大事なことであり、ゾーンAが「子どものエリア」といった認識になると勿体ないと思う。年齢を問わず、遊びと挑戦を忘れない、また、取り戻せるゾーンになればいいと思う。このエリアは、どうしても遊具に目が行きがちになるが、ここにはパークマネージャーが常駐する方向性であるので、大人が置いてきぼりにならないような機能を併せて確保していけると良いと思う。

もう1点は、パークマネージャーが居ると居ないとでは、空間が持つ機能の幅が大きく変わってくると思う。1つ願うのは、公園に常駐する人という、管理人というイメージになりがちであるが、どうか管理人ではなく、「コーディネーター」という役割でいてほしい。HUBという名前がついているので、人と人、物と人、場所と人、物と場所を繋げる場所になっていくと思うので、どうか人と人を繋げられる仕事をしていただきたいと思う。

○意見 2

ゾーンコンセプトが大変まとまっており、川や道路についての考えが組み込まれているので、具体性が高まってきたと思った。さらに、公園のみでなく、道路の活用にも焦点が当たっているため、整備などの取組が進んでいけば自然と周囲のエリアや道路沿いの店ににぎわいが波及していくと思うので、この場所への来訪を促せるコンセプトに固まったのではないかと思った。

ゾーンAについては、前回の会議の中でベンチの設置や日陰が必要といった意見が多かったと思うが、それらの意見がきちんと反映されているなと思った。加えて、大屋根の設置により、水辺との相乗効果も含め、涼む場所が増えたことを印象づけし、周知が図られると、利用者が増えるのではないかと思った。

ゾーンDについては、図書館で本を借りて読むことができるスペースがある静かなエリアといったコンセプトを示されている。その中のHUBに飲食機能を持たせるということについて、店にとって人を呼び込むことが大事であるため、店がある周辺の空間（図面左側）は開放感を確保して人を呼び込み、サイレントテラスのある空間（図面右側）を静かに過ごせるような空間とするなどエリア内の住み分けができるような形になると、より良いと思う。

○意見 3

このエリア全体に川があるということが重要なポイントだと思う。堺川は海が近いので、淡水ではなく、海水が混ざっているので、潮が引いた時にはカニなどの生き物を観ることができると思う。こちらの川へ降りていくことは、水質的な課題もあると思うが、川辺では生物を観察することができるので、周辺に生息する生物の解説板などが設置されていれば、子ども達の学びの場として良い環境となると思う。また、川であるが水が無くなるということを実際に見て学ぶことができるため、貴重な場であると思う。ゾーンAが良いかと思うが、どこかのエリアで生き物を観察することができれば良いと思う。

また、既存の樹木を残しつつ、新たに樹木を植えられると思うが、例えば桜について、ソメイヨシノだけでなく色々な種類の桜を植えることで、多様な桜が咲いているから公園に行こうとなると思うので、植物を基にした人を呼び寄せる仕掛けが複数あれば良いと思った。

もう1点は、呉市と言えは屋台のイメージがあるが、私が呉市在住ではないこともあり、夜に屋台を訪れることができていない。例えば、観光に来た人が夜はもう行くところが決まっているけれど、昼に屋台でラーメンを食べることができるというのも、呉市に来た人への魅力の1つになる

のではないかと思う。

○意見 4

ご説明いただいた、ハード面、設え・デザインはとても大事なことであり、ハード面は呉市が全力で検討しているので実現されるものとして引き続き応援したいと思う。

一方で、ソフト面、整備された場がどのように使われていくのかが検討において重要になると思う。そうした中で、基本デザインの取組を端的に示しているのが4ページのコンセプトのところだと思う。「わたしとまちが交わる場所」ということで、まちと多くの人に関わっていくことを実際に体現してくのに重要な役割を担うのが、パークマネージャーであると思う。

パークマネージャーは、ただの公園管理ではなくディレクターの役割を担うもので、公園の運営の良し悪しはディレクターの裁量・力量に関わってくると思う。

そのため、今後重要となるのは、ソフト面をどのようにデザインしていくのかという点であると思う。今後の検討の中で、多くの人とまちが関わっていくことで、その先に何があるのかというところが示されていくと良いと思う。

ここで2例、他市町の取組を紹介する。

1つ目は奈良県の天理市の例である。

天理駅前に「コフフン」という広場があり、こちらの広場を天理市が2017年に整備している。詳細については、ホームページ等で見ただければと思う。奈良県は古墳が多く、建物のデザインは古墳をモチーフにしたものを設えていて、トランポリンや子ども向けの遊具がある。

ソフト面の取組としては、mont-bell・天理大学・天理市が共同で若い人たちがまちなかに集う取組を展開されている。その1つとして、天理大学のショップがある。天理大学はバレーボールやラグビーが強く、大学の部活のグッズをショップで販売しており、実際に天理大学の学生が店頭立ち、駅前広場の店舗が学生の学びと実践の場になっている。また、サテライトキャンパスといった形で、農業に関する内容など大学での通常の授業を学生と市民が学ぶといった取組をされている。これらを通じて若者と市民がまちなかで交流する場がうまくデザインされている。また、実際に現地を訪れるとファニチャーもまちなかと統一されているので、すごく楽しい若者が集うまちの広場になっている。

もう1つは、岡山県の津山市の例である。

広場での取組ではないが、建築家の方が地元の高校生を集めて、まちなかで高校生と地域の人たちが関わるという取組を通じて高校生を育成し

ていく「城下ハイスクール」という取組をされている。一見，文化祭のようなことをやっているように見えるが，実際にはイベントを催してお店を出したり，地域資源・文化財の魅力を再発見し広めていくといった取組を大人が敷いたルールに沿うのではなく，準備段階で高校生が自らやりたいことを企画し，まちの人たちに実際に話を聞き，時には失敗しながら企画の実現に向けて一生懸命取り組まれている。

こちらは，高校生の企画を検討の中で成功と失敗を繰り返しながらも，まちなかに関わりながら実現に向けて進めていくという過程の中で，まちなかで人を育てるといった取組であり，この取組に参加された高校生がまちなかでの取組を通じて津山の魅力を再発見していく。参加者の中では津山で働いてみたいといった生徒が登場しているようである。

また，この取組は開始されて5年程度であるが，1期生の学生が中心市街地の活性化に携わりたいとの動機で津山市役所に就職されるようである。

この取組を通じて，人材育成とシビックプライドが醸成されているように思う。地方都市では18歳の人口が就職・進学を機会に大都市に出て行くこともあり顕著に減る傾向，他の世代と比べても崖のようにガクッと減少する構図。転出してしまうことは仕方が無いが，重要なのはいかに地元に戻ってきてもらえるように，その崖に橋を架けてあげることができるか，こういった人材育成に取り組む，若者が活躍できる場を提供することが重要なのではないかと思う。

○意見5

特に若い人とまちがどう関わっていくかということが今後，まちづくりで重要になっている。

以前，呉宮原高校の生徒とワークショップをした際，多くの生徒がまちなかに居場所が無いと発言していたことから，まちなか公共空間の一部がそういった居場所づくりやまちとの繋がりに貢献できるようになればと思う。

○意見6

先日，会議の事前説明を受けた帰りに，将来像をイメージしながら今回の対象エリアを歩いてみた。平日の15時ぐらいだったが，どんぐり公園に2組ほど，小さなお子さん連れがいらっしゃって，そこから図書館の辺りに行くと，途中で工事をしている箇所があるので，人がいなくなる場所がありながらも，年配の方が何人かベンチに座っていた。図書館から商店街側に回ると，ベンチは置いているが，ここでゆったり過ごすといった使い方をしている方が少ないと感じた。辺りを見ていると，ひとけが無く見

通しが悪いといったことから、もの寂しい感じもあり、あまりゆったりする雰囲気ではないのかなと思った。

コンセプトに関しては、例えばゾーン毎に看板が設置されていて、このゾーンは遊びのエリアで、その先の図書館辺りだと、カフェや本を読める青空図書館などのゆったりしたスペースがあるといったことが見てとれると、足を延ばして、あっちのエリアまで行ってみようといった誘導ができるのではないかと思う。また、花や綺麗な植栽などがあれば、それらを見ながら散歩して、気がいたらこのエリアを1週回っていたといったことになるかもしれないし、ベンチや芝生があると居心地がよさそうだから、そこにゆったり座って2～3時間経っていたという使い方がされると思う。そういった使い方ができたら、素敵だなと思いながら歩いたので、エリア毎に設置されているものや使い方が判り、示され、この場所に行くきっかけづくりができれば素敵だなと思った。

あとは、綺麗なトイレであったり、ゾーンによってはハトがかなり増えているので、綺麗な場所が増えると訪れやすいと思った。

川の話でいうと、堺川は水の増減が激しく、潮が満ちた時は魚が泳いでいる。その時に子どもと「魚がいるね。」といった会話になったが、魚の種類がわからなかった。こんな魚がいるといった看板や、デッキ部分から川が覗ける仕掛けがあっても面白いのかなと思った。

○意見 7

ひとけがあまり無いということに関して、まちづくりにおいてよく言われているのが、ひとけが人を呼ぶということであるため、人が居るということを見えるようにしておくことが大事である。

加えて、ここが遊ぶエリア・ゆったりしたスペースといった形でメッセージを伝える必要があるといったお話しがあったが私もそのように思う。昨年度の社会実験時、テーブルやベンチを設置するのみでは利用してもらえなかったが、「ご自由にお使いください。」と張り紙をするだけで利用が増えた。施設を使ってもらうために少しだけ後押し・仕掛けがあれば良いと思う。

○意見 8

当初の会議から申し上げているが、周辺の駐車場の在り方に課題があると思っている。

この界隈の住民であれば、この空間で長時間滞在してゆっくり過ごすことができると思う。一方で、観光客或いは周辺部から来られる方は車を使って来訪することも多い。この方々に、可能であれば、公園でも遊んで、その後は商店街でご飯を食べて帰ってもらいたいという思いがある。その

場合、中通にある駐車場を使うとおおよそ30分100円の駐車料金がかかり、その間の滞留時間が、例えば3時間であったとすると、それだけで駐車料金が600円かかってしまうこととなる。

このエリアで近隣の駐車場は、市役所の駐車場や蔵本駐車場、川沿いのコインパーキングと中通りに点在する駐車場がある。今後、素晴らしいこの公園が完成したことを考えると、例えば、商店街で飲食された人には、駐車サービス券をお出しするといった仕組みがあればよいと思う。そういった仕組みがないと、平日に近所の人に来るだけの公園になってしまいかねない。

もう1点は、堺川沿いの中通りパーキングの一面を広場化されることに異論はないが、中通商店街（れんがどおり）を再整備した際の取り決めとして、商店街の駐輪スペースは自転車のみが駐輪可能で、川沿いのデッキ空間にバイクを置くこととして、屋根を整備してもらっている。再整備する際には、このバイクの駐輪場の行き場所がどこになるのかを考えていただきたい。

○意見9

昨年度の社会実験時のデータによると公園から商店街に行かれている方が多いので、商店街と一体となって空間づくりをする必要がある。また、空間内に長時間滞在していただくためには、駐車場がどう在るべきなのか、駐輪場の最適なかたちをデータをみながら検討しないとイケない。

○意見10

ソフト面では、僕たちはまちづくりのイベントをやっている、持続可能な形でイベントを行うことに四苦八苦しているので、マネジメント面が大事であると思っている。

また、広島国際大学には社会学科・地域創生学専攻といった新たな学科ができており、その学生が僕たちのイベントと一緒に考えていくこととなっている。この近辺には、他にも呉高専、広島大学といった学校があるので、今後の管理運営に学生を交えていくと良いと思った。先ほどの天理市・津山市さんの取組みのご紹介から、改めて若者の活躍の場を設けることが大事であると思った。

また、コフフンはnendoという、建築業界では有名な会社がプロデュースしている。広島や呉は、実は建築家が多い土地柄で、全体コンセプトや方針を基に建築家の力を一部借りても良いと思う。例えば、エリア全体だと大変なので、一部のエリアで建築家や学生を対象としてコンペを行ってもいいのではないかと思った。特に、広島大学や呉高専といった建築系学科のある学校が近くにあるので、それらの方々を巻き込んでさらに計画を

進めていくと良いと思った。

○意見 1 1

コンセプトが非常にすばらしくまとまっていて、わくわくする内容だと思う。今まで委員の皆さんで、こういったコンテンツを準備すると市民が集まってきてくれるだろうということでもまとめてもらわれていると思う。

一方で、外部からの目を意識することも必要であると感じており、観光客に来て欲しいという単純な理由もあるが、人が人を呼ぶということもあると思う。また、外部からの評価が高まることによって、市民が自慢の公園だと思う効果があると思うので、呉自慢の公園にするということを目指してやっていただきたいと思う。

前回の会議では、ヘルシンキの例が挙げられていたが、ヘルシンキには中央公園と少し構造が似ている縦長の公園があって、観光客は漏れなくその公園に行くという例がある。そこと同じように呉に来たからには、必ずここに行かないと損というぐらいの魅力を作れたらと思う。今後、新たに呉のガイドブックを作るとすれば、1 ページ目が大和ミュージアム、2 ページ目にはこの空間が載るぐらいの魅力を作り出せないかなという気がしている。

そういった目線で、私も実際にエリアを歩いてみた。外部の人がこのエリアに来られて、絶対的に綺麗だなとか、居心地がいいなと思わせるためには、まず何ができるかなと考えた時に非常に単純なことであるが、レンガを綺麗できないかなと思った。コスト面を考慮せずに申し上げているが、せっかく川があってその横に長くレンガ舗装の道が整備されていることは他の市町にあまりない財産であると思う。呉にいとあまり気付くことがないが、改めてそう思った。

レンガ舗装に限らず、欄干、植栽やエリア全体の緑化などを含めて、これまでに考えていただいたコンテンツに加えて、単純に来て気持ち良いと感じてもらえることをベースとして取り組めないかなと思った。

○意見 1 2

皆さんのご意見をお聞きして、非常に川が魅力的な場所だというご意見が多いと感じている。この度、計画されている地域は西側に住宅地や企業が沢山あって、東側が商業地になっているが、その2つのエリアが川で分断されてはいけないと思っている。

堺川を管理している立場から川の役割を申し上げると、川は昔から人流物流の中心であり、生業や家事・洗濯をし、子どもの遊び場であり、人の暮らしと非常に密接な場所であることが本来の姿である。それが現代では、どこの地域でも、洪水の恐れから堤防を高くし、川は危なくて近寄り

がたいところというイメージに変わり，その結果，川と街の分断が起きていると感じている。

ただ一方で，皆様のご意見のとおり，水辺は皆が愛している場所という側面があって，地域の景観・歴史・文化・観光基盤の資源であり，河川空間とまちなか空間を融合した空間形成が必要である思っている。治水，洪水を防がなければならないので，堺川周辺エリアを再整備していくに当たっては，治水効果・機能を担保した上で，色々な工夫ができるとよいと思う。

今後，新しくにぎわいを作るため，先ほど話があったように，水辺を生き物の勉強をする場とすることも大事だと思う。また，川を見るだけでも楽しい，風や匂いを体感するといったことに加えて，これまでに堺川がどのように変遷してきたかを川のゾーンに展示することで，川をすごく大切にしているといったアピールにもなり，この公園に個性を持たせる面で大切であると思う。

○意見 1 3

本日は川を活かす，水辺空間の活用に関するご意見を沢山いただいた。この度の基本デザイン検討資料では，ゾーンコンセプト・方針図にあるように，堺川沿いの駐車場の一部を広場化するという計画を示している。昨年度の社会実験では，堺川沿いの駐車場においても実験を行ったが，短期間であったため，サンプルデータがあまり取れていない。

そのため，来年度は水辺空間の社会実験を行う予定としている。次回の実験では，水辺を活用することでどのような人の流れが発生するのか，どういった滞在機能が必要になるのかといった点に加えて，プレイヤーの発掘，そういったことを念頭において実験を行っていきたいと考えている。

○意見 1 4

水辺空間の話に関連して，北九州市の小倉城近隣の地下に，川をガラス張りの外から観ることができる水環境館という施設がある。水族館を本格的に造ろうとすると非常に大変であるが，この施設では，水槽を並べて川の生き物などを展示したり，川をガラス越しに観察することができる川を学べる施設となっている。普段は観ることができない生物や川の中を観て学べる場所になると来訪される方が増えると思う。

また，ここは地下を涼みながら歩くと，デパートに繋がっており，お土産を買ってしまう導線がつくられている。まちなか公共空間においても，気がつくとも商店街に行っていたという流れができるとすごく面白いなと思った。

そのほかに，静岡県の三島市には「みしまっぷ」という地図がある。こ

のマップは市内の観光地の周遊ルートが掲載され、キーポイント・観るポイントがまとまっていて、訪れてから時間が経っているがよく記憶に残っている。今であれば紙のマップでなくて、QRコードで見れるようにして、くつろぎポイントなどをしっかりアピールできるものを作っていくと良いと思う。そこに学生が関わると彼らが情報を広めてくれるので面白いかなと思う。

もう一例、三重県のいなべ市では、「雨庭」という雨水を貯めて、土に染みこませる場所を増やそうという取組を進められている。市の研修所の隣に試験的にスペースを設置しており、それを作る課程に学生が関わっている。この樹木がどうなっていくか、一緒に場を育てていくという仕組みが今後オープンするそうで、一緒に場を育てる仕組みができると、長期的に関わることになり愛着が湧き、地元に戻ってきたいという人も増えてくると思う。

○意見 1 5

5 ページのイラストに図書館からペDESTリアンデッキが架けられていて、基本デザインでは、将来的にデッキの設置を考えていくという構想になっていると思います。この公園で、少し高い位置から港を観ると一番綺麗なのではないかといつも歩きながら思っている。タンカーやクレーンが見えて、街並みの中に川が流れている景観がすごく写真映えするポイントになり、人がたくさん来るのではないかなと思う。そのため、このデッキはすぐにでもあればいいかなと思う。

○意見 1 6 (神垣土木総務課長代読)

基本デザインについて、全体的にこれまでの意見を取り入れてわかりやすくまとまっていると感じた。また、ゾーンコンセプトの設定はこのままで良いと思うが、名称は「○○ゾーン」で揃えるなど表現を統一したほうが分かりやすいと思った。

水遊びができるコンテンツの提案があるが、呉ポートピアパークのじゃぶじゃぶ池のように水が深くたまるようにすると衛生管理がとても難しいので、噴水や水鉄砲などで遊べるような工夫が必要であると思う。

また、Middle ゾーン (ゾーンD) に wi-fi 機能を導入すると使いやすくなると思う。

○田中座長

皆様からコンセプト・ゾーニング、施設配置などに関する意見いただき、概ね事務局の示した案に賛成という結果で議事 1 を終結する。

【質疑・意見交換 2】

まちなか公共空間の利用促進について（資料 3）に係る各委員からの主な意見は次のとおり

今後の取組において取り入れるべき視点等について

○意見 1（神垣土木総務課長代読）

空間の短期利用については、趣味を含む非営利の活動は使用料が無料、営利活動は使用料を有料化するなど検討をしてはどうか。

広報を学生、企業、ボランティア団体等に行い、積極的に使ってもらい、アンケートを取り、フィードバックを行うことが重要である。

○意見 2

①のモグモグパークについて、知人のキッチンカー営業者から聞いた話である。余所では出店のみではなく、例えばイスやベンチ、簡易な遊具も有料で貸し出すといった取組をされている。単純に店を出す場所だけでなく、来園者にとって他の公園利用が可能で、プラスの楽しみ方ができるものを貸し出せる仕組みがあれば良いと思った。

また、例えば、出店者情報を市が広報するといった、店側のメリットを示し、余所の募集とは一味違うといったメリットがあればいいかなと思ったので、今後の募集時には、そういったプラスアルファを示すことができれば良いのではないかなと思った。

○神垣土木総務課長

ご意見をいただいたとおり、昨年度の呉市まちなか公共空間社会実験においても、色々な遊具の貸出しが非常に好評であった。ご意見のとおり、そのような仕組みを導入できれば良いと思っているが、現在貸し出せるものを持ち合わせていないので、これは、今後のまちなかの整備の中で、パークマネージャーの役割の一つとして、遊具等の貸出し機能を持たせるように考えていきたいと思っている。

○意見 3

ベンチとテーブルに関して、ベンチはあるが、数脚しかなく、そこに他の来園者が荷物を置いていたりすると、座る場所が中々なかったりする。キッチンカーが出店するときだけでも、ベンチやテーブルを設置して、過ごせるような場所を造ればよいと思う。売店を一時的に開放するなどすると利用も多くなると思った。

②と③の今後検討する取組について、私自身がイベントを企画しようと思った場合、お金・場所・材料・道具などが、ネックになると感じている。

そういった面がプレイヤーの登録システムの開始によって、許可書を送るのがスムーズになり、申請方法の複雑化の解消や公園の空き状況の確認などが簡単にできれば良いと思う。また、例えば、プレイヤー向けのアプリが造られ、申請前に使用料が計算でき、貸出し物品が見て分かるイベントの企画や検討をしやすと思うので、その辺の使いやすさ、分かりやすさが向上すれば良いと思った。

広報の面では、周知して来園していただくといったところが一番大変であると思うので、市側が情報を発信し、プレイヤーをサポートできると良い。それを見て、利用する側もプレイヤー側になる人も増え、この場所に行ってみようと思う人も増えると思うので、そういったサポートができたら良いと思った。

○意見 4

私も広報についてお話しする。こういったキッチンカーの出店などの事業やイベントを行う時は、とにかく知ってもらうことがすごく大切で大変だと思う。現状のまま事業を始めると、個々の人、口コミに広報を委ねてしまうことになり、そうすると、なんかお店出してるらしいよとか、キッチンカーがいるらしいよといった感じで、単発でしか発信されなくなる。そのため、まちなか公共空間の利用という1つのプロジェクトの中で取組を行っていることをしっかり来訪者に解っていただく必要があると思う。

呉市のまちなか公共空間の取組としてやっているという見せ方をアシストする必要があると思うが、OurParkや呉市まちなか公共空間社会実験の時は、これらの事業の中でキッチンカーの出店やヨガをやっているといった形の見せ方ができていたので、社会実験の流れを引き継いでスタートされたら良いと思う。

○意見 5

この会議に参加しているのでこの取組を知ることができたと思う。そう考えると、知ってもらうための広報は大事であると思う。

②・③の取組に関しては、今年も引き続き、クレパスでイベントを開催する声が既に挙がっていて、この②、③を利用すると、さらに僕たちは便利になるし、プレイヤーの登録者間で交流があれば出店に関しても、上手く利用させていただけるのかなと思う。いつ頃から実施予定か伺いたい。

○神垣土木総務課長

早いうちの実施を検討するが、明確にいつということを実段階で決めて

いないため、改めてお伝えさせていただきたい。

○意見 6

是非よろしくお願ひしたい。②と③の取組は、将来のパークマネージャーの常駐に通ずることであって、パークマネジメントの一環だと思ふので、積極的にやっただけだと非常に良いと思ふ。

○意見 7

これらの取組は、再整備するまでの期間で取り組まれるものであると思ふが、先ほだのご意見にあつたように、広報が非常に大事だということは全く同感である。公園で事業をされる方の目線だけではなく、これを一般の利用者の方にも知つていただくということが、今後、この場所を運営していく中で非常に重要であると思つている。

例えば、市民の方に関心をもつてもらふために、情報をオンライン化し、ここの飲食機能は良かったなど生の声をダイレクトに呉市等の運営者とやり取りできれば、公園がより身近になつてくると思ふ。

また、将来、そのような制度ができれば、施設や植栽などの損傷に関する情報も市民の方から発信していただくと、維持修繕の役に立つて、管理面も良くなつていくと思ふので、そのような視点も取り入れたら良いと感じた。

○意見 8

今回の事業では、飲食の出店やヨガ・マルシェ等を想定されているが、私は環境イベントに関わる中で、どのようにしてお客さんを増やすか考へている。イベントの企画時には、環境の講演会、環境に係わる催しをしようといった声があがるが、そうすると環境に興味がある人しか来ないので、環境の広報にならないということを私は意見をしてきた。では、誰を呼べばいいかというところ、子どもが関わるダンスなどのイベントを開催すると、その広報をされたい方、さらに保護者と親族の方が来てくれる。そのように子どもが関わるイベントを呼び込むと保護者から親族・友人に広報効果が波及し、集客力が大きくなると思ふ。

先の話になると思ふが、ダンスや楽器をしている子ども達は、割と発表の場を探していたりするので、パークマネージャーの仕事になるかもしれないが、そういった人たちに出演の声かけができるようにしておくと、呉市や出店者からの広報以外によつて、イベント参加者がお客さんと呼んで来てくれると思ふので、そういったことも一緒に取り入れられると良いではないかと思つた。

○意見 9

キッチンカーの出店，やってみたいことの挑戦について，休日のお客さんが実際に来ていただけるタイミングであれば，比較的キッチンカーが出て商売になるでしょうし，とてもいい取組であると思う。一方で，非収益事業をどのようにしていくかということが，課題になると思う。

先程，議論がありました自然と関わる体験や人材の育成といったパブリックな取組になると，なかなか収益が上がらないので，たとえ利用時に公園使用料が免除されたとしても，おそらくコスト負けすると思う。結局，コスト負けすることになると，プレイヤーも本業がある中で本業の利益を削りながら，本業以外のところに力を注いでいくことになり，それは大変なことであると思う。

パブリックな取組というのは，ハレとケの日という公共空間内での2つの側面があるなかで，ハレの日はイベントを実施すると人が集まり儲けを生み出し，パブリックな取組みを支えやすくなる。一方でケの日，つまり通常の平日にパブリックなイベントを実施しても継続が難しい。公共空間の利用促進上で重要なのは，ケの日にどれだけ人が集まるのか。ハレの日で集まった人をパブリックな取組の中でどのようにケの日に繋げていくかということが大切である。現在，様々な自治体が公園などの新たな活用を検討されている。その検討の中で，非収益事業をどのように支えていくかという点が課題になる。例えば，呉市が補助制度を立ち上げ，プレイヤーがその制度を使うといった仕組みを作ることも必要だと思う。その上で，プレイヤーの登録・交流制度の創設の裏に補助制度の検討がセットされ，この制度が行政の支援制度とプレイヤーを繋ぐことができれば良いと思った。

○意見 10

先ほどの話を聞いて直感的に思ったのは，公園は屋外なので天候の懸念がある。幸い，中央公園 8 ブロックは市役所に近いので，雨の日は市役所のロビーが使えるといった融通が聞けば，より色々な取組を行うことができるのではないかと思う。

以上で閉会